

令和元年度 第1回大分市外部行政評価委員会における主な意見②

※令和元年10月10日開催

2. 「総合戦略の施策総括評価」について

| | 基本目標 | 主な意見 |
|---|---------------------------|--|
| 1 | I しごととにぎわいをつくる | <p>数値目標である「誘致企業件数」は順調に伸びているが、市民にもたらされた便益、成果という観点から雇用者数、事業所税の増加といった経済効果や企業誘致に要した補助金、助成金を踏まえた費用対効果等も検証しながら、より効果的な施策を展開していく必要がある。</p> <p>(安定した雇用の確保と勤労者福祉の充実) 中小企業では少子高齢化の進展によって労働者が不足しており、現在の生産性が確保できるかどうか課題となっている。人口減少の局面を迎え、大分市の経済を今後も停滞させることなく、順調に発展させていくためにはどうすべきかという危機感を持って、県外、海外からの労働者の受入体制を整えるなどの施策を展開していく必要がある。</p> <p>(魅力ある観光の振興) 県内の全ての食が集まっているという「食文化」の強みを生かした戦略や、MICE(マイス)、スポーツ合宿の誘致といった大分市ならではの特色を生かした戦略を展開していく必要がある。</p> |
| 2 | II 人を大切にし、次代を担う若者を育てる | <p>数値目標である「保育施設利用待機児童数」の「0人」を達成することも大事だが、保育の実態が適切かどうかもしっかりと検証すべきである。保育施設においては、定員数、広さ、専門職の配置数、防災管理等、施設の質が担保されていることが重要である。</p> <p>さらに、保育施設の定員の拡大に伴い、不足する職員をいかに確保していくかということが問題となっているので、働く人の視点から、人材の確保、育成という課題にしっかりと対応した施策展開が図れているかという点も踏まえて評価をしていく必要がある。</p> |
| 3 | IV 安全・安心な暮らしを守り、未来をつくる | <p>少子高齢化が進展するなかで、例えば消防団に関する施策などは、現在の仕組みの維持を前提とした施策展開が難しくなってくる事が考えられる。他の基本目標に係る施策展開においても言えることだが、今後長期的な計画や戦略を策定するに当たっては、持続可能な将来像とはどういったものであるかをしっかりと想定し、その姿を具現化するシステムを施策として織り込んでいく必要がある。</p> |